

令和2年度 狭山市立入間野中学校経営全体計画

0 はじめに

国→教育基本法 第1条—人格の完成、(教育の目的) 第2条—教育の目標

教育振興基本計画「すべての子どもに、自立して社会でいきっていく基礎を育てる」(目指すべき教育の姿)

県→生きる力と絆を育む埼玉教育プラン(第三期)

市→「夢をかひえ 人をつくる 狭山の教育」

「生きる力を備え 未来へはばたく “さやまっ子”の育成」

1 学校観

学校とは、集団の中で子どもの生き抜く力を育み、夢を実現し得る力を身につけるため、計画的、組織的に教育活動をすすめるところである。

2 中学校とは

- (1) 知識と技能と体力を育むところ
- (2) さまざまな感動や葛藤を経験しながら心を育てるところ
- (3) 将来を見据えながら義務教育後の進路について学び、考え、選択するところ
- (4) 我慢をおぼえるところ(大人の対応を教える)

3 入間野中の強み

- (1) 継承していくもの→生徒や教職員の良い雰囲気、一体感、生徒の自主性、生徒会活動
- (2) 発展させたいこと→あいさつ、生徒の自己解決能力、子どもに考えさせる場面、清掃

4 校訓

高く(知) 明るく(徳) たくましく(体)

5 学校教育目標

「志高く、心豊かに、自らを鍛える生徒」

6 学校教育目標が目指す具体的な生徒像

(1) 志高く

- ① 今の自分、将来の自分の在り方、生き方を考えられる—自己有用感、自己肯定感を高める
- ② 授業や他人の考えをよく聴き、自分の考えをはっきり言える—「聴く力」「発信力」
- ③ 物事を広く深く見ることができる—寛容さ、探求心

(2) 心豊かに

- ① 相手の目を見て、聞いたり話したりする *一方的に話さない
- ② 「はい」「すみません」「おかげさま」「私がします」「ありがとう」をはっきりと言える
- ③ 自他の尊厳を認め、命を大切にする(いじめ、暴力をゆるさない、謙虚な心と態度)

(3) 自らを鍛える(挑戦する)

- ① 毎日の「あたりまえ」をあたりまえにこなす—身なり、時間、清掃
- ② 50分間の学習に集中して取り組む—意欲、我慢
- ③ 自分で決めたことを粘り強く最後まで全うする—達成感、成就感

7 目指す生徒像 「気遣いのできる生徒」一場を読む力、柔軟性、行動力

8 経営方針 「生徒の知性と品性を磨く学校づくり」

- (1) 生徒一人一人の強みを引き出し伸ばします。
- (2) 大きな夢と誇りを育み、持続可能な社会の未来を拓く教育を推進します。
- (3) 謙虚な心と自他の命を大切にする教育を推進します。
- (4) 生徒、教職員、保護者、地域が愛し、誇りに思う学校を創ります。

＜具体的指針＞

- ① 本校の強みを継承しながらも、リスクを恐れず子どものために新たな教育活動を創造する
- ② 信頼と協働のもと、組織的に課題に臨み、全教職員でひとり一人を教育する体制を確立する
- ③ 子どもの心を揺さぶる教育環境（人、もの、仕掛け）づくりをすすめる
- ④ 小中一貫教育を踏まえ、保護者、地域の教育力の活用を推進する

9 指導の重点、努力目標

本年度特に力いれたい点 学習－「学びに向かう力、読解力の向上」
生活－「他人に寛容な心の育成」

(1) 確かな学力につながる学習活動の充実と基礎的・基本的事項の徹底

- ◎ 1 単位時間内で学習内容を理解し定着できる授業、わかることに自信のつく授業
- ◎ 「理解して深める」授業の創造(展開の工夫)、まとめの工夫
- ◎ 基礎・基本の定着のこまめな見届けをする
- ◎ 家庭学習の習慣化(自学、自習できる力の定着に向けて)
○ 毎日 30 分以上は、自宅で机に向かい学習することを継続させる。

(2) 豊かな心の醸成

- ◎ 感動、葛藤のある教育活動の創造
- ◎ 自他の尊厳を認め、謙虚な心と命を大切にする教育の推進
- ◎ 自助、共助、公助の心と態度を育む教育の実践

(3) 基礎体力の向上と心身の健康の増進

- ◎ 体育の授業の充実
- ◎ 目的意識を持った部活動の充実－顧問が必ず部活動に出る
- ◎ 食育の推進、防衛体力の増進

(4) ESD（持続可能な開発のための教育）

- ◎ SDGs との関連を意識した教材研究と授業改善
- ◎ ユネスコスクールへの参入に向けた研究

(5) 積極的な生徒指導の推進(生徒指導環境の整備)

- ◎ 規律ある態度の育成
 - 心を落ち着けて行動する、黙働の推進と徹底
 - 時間を守る - 学校生活で時間を守る→
①朝読書の開始 ②授業の始終業
③清掃の始まり ④下校

○身だしなみ、言語環境を整える

◎清掃にしっかり取り組み、他人が嫌がる仕事に喜んで取り組む態度を養う

◎いじめ防止、不登校防止対策の推進

(6) 社会総がかり(保護者、地域)の共育の実践

◎家庭との連携の推進

◎地域の教育力の積極的な活用

◎学校が地域に出向く活動の工夫